

第12回大分県高大連携シンポジウムを開催しました

2月18日(土)9:30~12:10 本学経済学部 101 教室において、「高大連携による理系女子育成」というテーマで、第12回大分県高大連携シンポジウムを大分県教育委員会のご後援を得て実施しました。県内外より高等学校、中学校及び大学関係者など107名が参加しました。

司会は理工学部4年生 一色さんが担当しました。

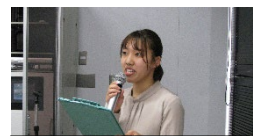


藤井理事



山田課長

開会行事では主催者である本学教育担当の藤井弘也理事と来賓として大分県教育庁の山田誠司高校教育課長にご挨拶をいただきました。



司会 一色さん

基調講演は佐賀大学ダイバーシティ推進室の荒木薫先生から「女子

中高生の進路選択—その背景と課題—」と題してお話をいただきました。荒木先生は、理工系女子を増やしたい理由として次の4つを挙げられました。①理系・IT系人材不足の解消 ②ITは日本ジェンダーギャップを埋める ③Gendered Innovationsの推進 ④社会構造の変化とダイバーシティの推進



荒木先生

次に、女子中高生が理系を選択しないのは、ロールモデルの欠如、無意識のバイアス（無意識の思い込み）、情報不足であると説明されました。最後に、理系女子を支援するため、大学や地域が行う、授業外の学びの場を活用することや生徒や保護者に適切な情報やロールモデルを提示することは効果が高いと説明されました。



森 先生

続いて2例の事例発表を行いました。大分県立大分豊府高校の森先生は、高校での文理選択の現状を、生徒のアンケート結果を用いて説明されました。次に、大分大学理工学部の信岡先生は、自らの進路選択を振り返りながら、視野を広く持ち、



信岡先生

迷ったら冒険してみようとお話されました。



松浦先生



堀さん 古川さん

この後、意見交換会を実施しました。本学から理工学部大学院2年生 堀さん、理工学部4年生 古川さん、そして荒木先生、森先生、信岡先生も加わり、コーディネーターの松浦先生の司会で、現状と今後の展望について、あらかじめ参加者から質問用紙に記入していただいた

内容をもとに、討論をしました。質問は、「理系進路の幅について。なぜ、医者や薬剤師になりたいと

思ったのか。文理選択について。県教委の支援について」等幅広い内容で、会場の参加者にも意見を求めて白熱した意見交換がおこなわれ、盛況のうちに会が終了しました。閉会行事では本学の高大接続担当 足立理事が挨拶を行いました。終了後の参加者アンケートによれば「よかった」



足立理事

が88%で、「どちらかというとよかった」を加えると100%が積極的な評価をしました。

